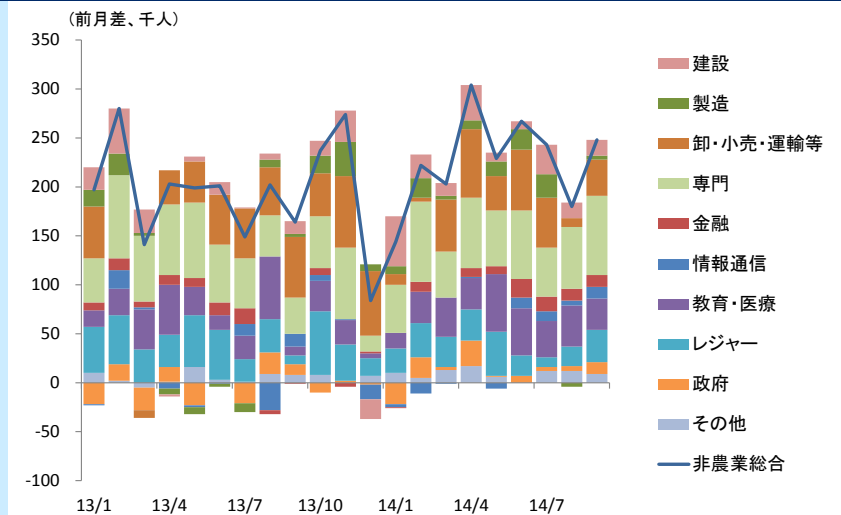


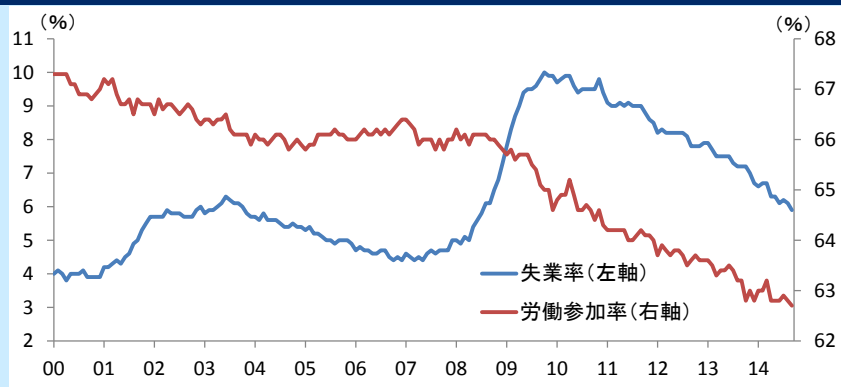
米国：雇用統計（2014年9月）

MRI Daily Economic Points
October 7, 2014

図表1 非農業部門雇用者数（前月差）



図表2 米国失業率



資料：米国労働省

評価ポイント

今回の結果

- 9月の非農業部門雇用者数は、前月差+24.8万人増となった。8月(+14.2万人→+18.0万人)、7月(+21.2万人→+24.3万人)はともに上方修正。
- 9月は幅広い業種で雇用者数の増加がみられた。内訳をみると、サービス業(同+23.6万人)では、専門・ビジネス(同+8.1万人)、小売業(同+3.5万人)、レジャー(同+3.3万人)、教育・医療(同+3.2万人)などが増加した。サービス業以外では、建設業(同+1.6万人)や製造業(同+0.4万人)、政府部門(同+1.2万人)などで増加となった。
- 9月の平均労働時間(33.7時間/週)は前月(33.8時間/週)から小幅減少した。平均賃金も前年比+2.3%と前月(同+2.5%)から伸びが低下。13年後半以降、平均賃金の伸びは横ばいの状態(同+2.2~2.5%程度)が続いている。
- 9月の失業率は、5.9%と前月(6.1%)から改善し、08年7月以来の水準となった。労働参加率も62.7%と前月(62.8%)から2ヶ月連続の低下。

基調判断と今後の流れ

- 米雇用市場は改善傾向が続いている。14年初来、非農業部門雇用者数は月平均22.7万人増と、13年(同19.4万人増)を上回るペースで増加している。
- 企業の雇用スタンスを示すISM雇用指数をみても、製造業、非製造業ともに増減の分岐点である50を上回っている。内需も拡大基調を維持していることから、今後も雇用市場の緩やかな改善が続くとみられる。
- もっとも、非自発的なパート労働者数が全体に占める割合や平均失業期間は金融危機前に比べて依然高い水準にあるほか、賃金の伸びも緩やかにとどまるなど、雇用の「質」の改善は遅れている。
- FRBは、こうした雇用の「質」も含め、幅広い指標を考慮して景気情勢を見極めつつ、慎重に金融政策の正常化を進めていこう。